

高校サッカーOBに聞く

夢はまだ終わらない～

指導者として、現役プレーヤーとして

大野恭平・甲能光

浦和市立高出身

大宮東高出身

今年11月、地域リーグ決勝大会に「さいたまサッカーカラブ」(以後、さいたまSC)が出席した。この地域リーグ決勝大会とは、アマチュアの日本最高峰リーグであるJFL(日本フットボールリーグ)への昇格を目指す大会だ。今、Jリーグで活躍している多くのクラブが、熾烈な大会を経て、その地位に立っているということはあまり知られていない。

現在、「サッカーワンダーランド」埼玉には、J1に浦和レッズ、大宮アルディージャの2つがあるが、この2クラブに続くクラブが出ていない。残念ながら「さいたまSC」はこの大会で勝ち上がることができなかつたが、今、レッズ、アルディージャに続く、最有力と言つていいだろう。

ところで、この「さいたまSC」には、きみたちの先輩が多くいることは知つているだろうか。今回は、その中でも選手以前に、高校の顧問としても活躍しているお二人に登場してもらった。中盤の要である大野恭平選手(三郷高校サッカー部顧問・浦和市立高校OB)とチームキヤブテンである甲能光選手(鳩ヶ谷高校サッカー部顧問・大宮東高校OB)だ。

——まずはお一人のサッカーとの出会いからここまでを教えてください。まず、大野さん、いかがですか。

大野 小学3年生のときに新潟から与野(現さいたま市)に転校してきました。そこで与野本町サッカー少年団に入り、サッカーを始めました。新潟では野球をしていて、スポーツは好きでしたね。与野に来て、野球かサッカーか、どちらか強いほうをやろう

と思ったら、サッカーでしたね(笑)。少年団では下落合サッカー少年団を指導された上野さんに基礎を教えてもらいました。

——具体的には?

大野 ドリブルするときは顔を上げるとか、上野さんが上手かったキックフェイントも。ボールを蹴った後、その蹴ったシューズの跡を見てうまく蹴っていたかどうかを見てもらつたりしました。

——ここでいい習慣が身につけられたんですね。

大野 そうですね。小学校時代に上野さんに出会い、与野西中で柏先生(悦郎氏・さいたま市本太中学校サッカー部顧問。全国中体連サッカー専門部委員長(財)埼玉県サッカー協会理事)に教わったことが、自分には大きかつたと思います。

——柏さんからはどのような指導を受けましたか。

大野 2年のときからレギュラーとして起用してもらいました。一度、すごく怒られたことがありました。あとはノビノビといいところを伸ばしてもらつたと思いますね。僕としては、柏先生と信頼関係ができる



Profile



大野恭平

1978年新潟県生まれ。与野本町少年団～与野西中～浦和市立高～順天堂大学～埼玉SC(現・さいたまSC)。1996年、関東大会・全国高校総体出場、第75回全国高校選手権で準々決勝進出。01・02、05～10年埼玉県国体選抜、05年岡山・07年秋田国体出場。

——そこから順天堂大学に進学されましたね。
大野 なかなか試合に関われませんでしたね、チャンスはもらいながら、AチームとBチームを行ったり来たりしていましたから。卒業する際はJFLのチームも考えましたが、たまたま臨時教員に採用されたので、サッカー選手との両輪を考えました。たまたまSC)に入つたんです。すでに同級生の大森直樹が入つていたのですから、彩の国カップの決勝は見に行つたことがあって、入りやすさもありましたね。

そこでいろいろ選択肢はあったのですが、浦和市立にしました。中学時代、県の選抜チームに入りましたが、そのほとんどが武南高校に進みましたね。彼らには「負けない」と思つたものです。結果的には、高校選手権に出場させてもらい、仲間と出会えたのはよかつた思い出です。

そこでいろいろ選択肢はあったのですが、浦和市立にしました。中学時代、県の選抜チームに入りましたが、そのほとんどが武南高校に進みましたね。彼らには「負けない」と思つたものです。結果的には、高校選手権に出場させてもらい、仲間と出会えたのはよかつた思い出です。

——柏さんからはどのような指導を受けましたか。

大野 なつかしいながら、AチームとBチームを行ったり来たりしていましたから。卒業する際はJFLのチームも考えました。たまたま臨時教員に採用されたので、サッカー選手との両輪を考えたので、SC(さいたまSC)に入つたんです。すでに同級生の大森直樹が入つていたのですから、彩の国カップの決勝は見に行つたことがあって、入りやすさもありましたね。